

おめでとう

大総小学校



記念式典であいさつする佐瀬哲司町長（大総小）



式典にのぞむ在校生（大総小）



記念碑の除幕式で風せんが空に舞って（大総小）

創立100周年記念式典が大総小学校では10月18日（木）、上塚小学校では11月2日（金）に、それぞれ盛大に行われました。

当日は佐瀬哲司町長をはじめ地元関係者、歴代の校長先生やPTAなど大勢の学校関係者が出席し、厳粛な中で記念式典がすすめられました。明治・大正・昭和の出来事を児童が歌や寸劇で演じたりスライド上映するなど趣向がこらされ、出席者はいままでの歴史をふりかえって当時は感えていました。

そして式典の中では、校医として長い間子どもたちの健康管理に尽力された柳川儀助医師、伊藤一路医師に感謝状が贈られました。

また、校庭では「記念碑の除幕式も行われ、風せん」の舞う中、沼田知事書の「すこやか」（大総小）「努力」（上塚小）と刻まれた碑が披露されたほか、未来の子どもたちに向けたメッセージや鉛筆などの学用品を入れたタイムカプセルを碑の近くに埋め、100周年時代を後世に伝えることにしました。



大総小学校 内山 秀夫校長

先人の業績に学ぶ

われまず。

現在機械化の波に押され、ふるさとを愛する心、よき伝統が失われつつあるといわれています。しかし、本地域には脈々と息づいていることを感じます。

地域により気風は異なるとはありますが、大総地区のよきは隣人を思いやり、互いに助けあう連帯感の強さにあると思います。この気風は一朝一夕にできたものでなく、長い歴史の中で育まれたものと思

ふるさとを愛する心、よき伝統が失われつつあるといわれています。しかし、本地域には脈々と息づいていることを感じます。

地域により気風は異なるとはありますが、大総地区のよきは隣人を思いやり、互いに助けあう連帯感の強さにあると思います。この気風は一朝一夕にできたものでなく、長い歴史の中で育まれたものと思

本校創立百周年を機に沿革誌をひもときますと、学校創設当時夜を徹して論じあい、合意に達するや総力を挙げて開校に取り組んだり、水道敷設にあたっては、多くの困難を乗り越えながら労力奉仕をしてくださるなど、教育に情熱を燃やし、一致協力して子どものために尽力されたことがよくわかります。

子どもたちが百年をふりかえり、先人の残されたよき伝統に学び「ふるさと大総」を誇りに思い、すこやかに成長してほしいと願うものです。